

なりたいまちの姿①

○子どもにみんなにやさしいまち

・子どもと一緒に笑顔になれるまち

◎未来への希望がカタチになるまち

・わたしが未来を描けるまち

◎ここでの育ちがカタチになるまち

・わたしのやさしさがカタチになるまち

2040年の町田市を担っていくのは、いまの子どもたちです。子どもたちがまちへの愛着を深め、そこで育ってきたことに誇りを持つよう、様々な体験や挑戦ができる環境を提供していくとともに、その柔軟な発想にも積極的に耳を傾けていかなければなりません。

また、子どもたちが笑顔で健やかに成長していける背景には、当然ながら周りの大人たちも楽しく暮らしているということがあります。親や祖父母、地域に暮らす方々、あるいは学校や職場、行政などがお互いに協力し合っていくこと、社会全体で子育てしていくことなどが当たり前のようにできるまちであれば、それぞれが自分自身の未来を描く心の余裕を持つことにもつながるのではないのでしょうか。

子どもと共に成長していった先には、みんなのやさしさが溢れ、それを具現化して、誰もが幸せになれるような様々なカタチが生まれている、そんなまちに町田市はなっていきたいと考えています。

まちづくりの方向性①

子どもと共に成長し、  
幸せを感じることができる

なりたいまちの姿②

○ちょっといいちょうどいい暮らしができるまち

・東京にあるちょうどいいカントリーシティ

○わたしのちょうどいいをデザインできるまち

・わたしの暮らしが見つかるまち  
・わたしの暮らしに「プラスα」が見つかるまち

◎ココチよさが生まれるまち

東京の郊外に位置する町田市は、大小の商業施設が軒を連ねる中心市街地を抱え、買い物や食事を楽しめる場所がたくさんある一方で、市の北部などには豊かな自然が、まちなかには身近な緑があることから、アウトドアライフを気軽に楽しむこともできます。

また、小田急線とJR横浜線が交差する交通の結節点であることに加え、新幹線駅も程近く、広域移動でも高い利便性を備えています。更に、多摩都市モノレールの延伸によってますます便利になっていきます。

このように町田市は、仕事でも遊びでも、何か行動を起こすときの拠点とするのにちょうどいいまちです。そして、これからもこの特性を土台に、住む人、働く人などが自分の暮らしを思い思いにデザインできるようなプラスαの価値を提供し、選ばれ続けていかなければなりません。

ちょっといいちょうどいい暮らしの先には、それぞれの希望が叶ったココチいい環境が出来上がっている、そんなまちに町田市はなっていきたいと考えています。

まちづくりの方向性②

ちょっといい環境の中で、  
ちょうどいい暮らしができる

なりたいまちの姿③

○まちが家族しているまち

・つながりが力になるまち

○ありのまま暮らせるまち

・誰もが自分らしくいられるまち

◎誰もがホッとできるまち

・あたたかさを感じられるまち

町内会・自治会や小・中学校区、あるいは近所の家の並びなどによって分けられた「地域」というものは、私たちの生活における支え合いの基本となるものです。

様々な境遇や考え方の人が暮らす中にあっては、必要とする人が必要な支え合いの輪に参加できてこそ、地域のつながりの力を発揮できると考えられます。多様性の時代においてそれは、強制や圧力とは無縁の、あたたかい寛容に満ちたつながりであり、誰もが自分らしくいられるものでなければなりません。

また、多様な考え方を持つ人たちが、お互いを尊重し合いながら、自分たちの暮らす地域のことを自分たちで決めていく、このことができれば、これまでなかったような地域の特色を育むとともに、誇りや愛着を持って住み続けることにもつながっていきます。

人と人がつながり、それぞれを尊重し合える関係性の先には、ありのままの自分でいられてホッとできる居場所をみんながしっかりと見つけられている、そんなまちに町田市はなっていきたいと考えています。

まちづくりの方向性③

人と人がつながりながら、  
多様な価値を尊重し合うことができる